

◆Semester I 終業式

10月5日(土)に、Semester I の終業式が行われました。本校は2学期制となっており、前期となる Semester I の終業を無事に迎えることとなりました。

式に先立って、まずは表彰式が行われました。一人一人の名前が読み上げられ、拍手に包まれながら、努力の結晶である賞状や盾、トロフィーが授与されました。



続いて、IB コーディネーターの Mr. Semans より、終業式前まで行われていた「探究発表会(後述)」に対する総括が述べられました。また、生活支援部の木下先生から、最近の物価上昇などを踏まえて変更された「制服規定」についての説明がありました。



生徒会執行部からは、文化的行事「大宮国祭」の企画表彰の告知と、運営する本部メンバーの紹介、さらには生徒会予算の使用方法など、Semester2に向けて様々な説明がありました。



企画表彰

- ・ BGS賞 ・ エコ賞
- ・ 大宮国祭大賞



もしかしたらもう一つ増えるかも????



校長先生からは、MOIS における成績の意義やその活用方法についての説明があり、さらに、秋休みを有意義に過ごしてほしいとの温かい激励が贈られました。最後に校歌を斉唱し、無事に Semester I の終業式が終了しました。



MOISの成績と通知表

MOISの成績

過去の学習の結果

現時点でどういふ地点にいるのか、目指している姿に向かってどれだけ進むことができたか

= 現在の到達点

自分は何かできるようになっていて、何が足りないのかを、他者からの評価によって知る

これから自分はどういう学習をしていけばいいのか、どういう取組が必要なのかを考える

= 未来への指標

MOISの通知表

過去を振り返り、現在の己を知り、未来に向かって

自分自身を磨き高めていくための資料



今年度の Semester I では、全学年（1～6年）が揃っての行事や完成記念式典が盛大に行われました。改めまして、保護者や地域の皆様には、本校の教育へのご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、後半戦となる Semester 2 では、大宮国祭や MOIS Music Festival (MMF)、そして本校初の卒業式といった大きな行事が控えています。昨年度の経験や反省、さらに Semester I で学んだことを活かし、引き続き探究を深められるよう、生徒も教職員も新たな気持ちでスタートを切ります。

◆探究発表会

10月4日（金）・10月5日（土）に、探究発表会が行われました。探究発表会とは、Semester I の集大成として、各学年が 3G project で探究してきたことを発表する行事です。1年生は緊張した面持ちでしたが、この半年間の学びの成果を存分に発揮していました。そして、4年生は MYP の集大成として、3年生から約1年間かけて探究してきた Personal Project で自分が学んだことを発表しました。

それぞれの学年が、自分の探究の成果を発表し、互いの成果から学び合うことができたようです。

	3G Project テーマ
1年生	「What is MOIS?」
2年生	「SDGs Project」
3年生	「New Zealand 語学研修」
4年生	「Personal Project」
5年生	「Inquiry Project」
5年生グローバルコース	「Extended Essay」
6年生	「Inquiry Project」
6年生グローバルコース	「Our DP Learning」
留学帰国者	「Overseas Experience Talks (留学報告会)」



◆評価保護者説明会・保護者向け IB ワークショップ

9月9日(土)に、評価保護者説明会・保護者向け IB ワークショップが開催されました。評価保護者説明会では、MYPで学んでいる1年生～4年生の保護者の方に IB の評価方法について、5年生の保護者の方には Liberal Arts コースと STEM コースの評価方法について、そして6年生の保護者の方には進路について、それぞれ説明会を行いました。通知表の見方など、ただ説明を聞くだけでなく、保護者の方にもグループで対話してもらい、評価についての疑問点や評価に関して様々なことを話し合っていました。

保護者向け IB ワークショップでは、「概念に基づく学習」「探究学習」「ATL スキル」という3つのテーマでワークショップが行われました。概念学習・探究学習とは何か、そもそも「概念」・「探究」とは何か、保護者の方と一緒に考える機会となりました。生徒も同じように日々探究学習に励んでいることが伝わったかと思います。ご参加いただき誠にありがとうございました。



◆学校保健委員会

1日目「ほんの少しの勇気が命を救います」

10月2日(水)は、後期課程生に向けて、桐田寿子さんに講演していただきました。桐田さんは、当時小学6年生だった娘の明日香さんを事故で亡くされた経験をきっかけに『ASUKA モデル』を作成された方です。

講演では、当時の事故状況、娘を亡くした母親としての気持ちや、支えてくれた家族の存在を交えながら「AEDを使うのは怖いけど、持ってくることや、倒れた人に声をかけ、助けを求めることはできるかもしれない。何もしないのではなく、勇気を持って行動してほしい」と、AEDの普及や救命措置の重要性を強く伝えていただきました。



2日目「おいしく新鮮なヨーロッパ野菜をさいたま市で」

10月3日(木)は、前期課程生の食育の一環として、株式会社 FENNEL の社長、森田剛史さんに講演していただきました。さいたま市におけるヨーロッパ野菜の産地形成に取り組まれており、さいたま市内の小中学校170校の給食にも、FENNELで栽培された野菜を使った料理が毎年採用されています。

さいたま市で栽培されているヨーロッパ野菜の種類、栽培や販売時の苦労や成果、調理方法などを紹介していただき、普段の食卓ではなかなか見かけない野菜に生徒たちは関心をもっていました。



◆IB コーディネーターより

MOIS ARTS: Breadth and Depth in the IB and MOIS

IB コーディネーター: Brad Semans

One of the defining features of IB education is its balanced and holistic approach. Countries around the world, such as the United States, have reduced funding and placed less importance on physical and health education, arts education, and a focus on connecting all studies. How does this translate to classroom learning in MOIS? Let's look at some examples from the MOIS Visual Arts curriculum.

2. Art Process journal (APJ) とは？

目的：創造的思考、内省的思考、批判的選択のスキルの育成

生徒の
内的思考プロセス
創造活動 など



生徒が
APJに記録

- ・制作意図やテーマ設定
- ・複数のアイデア
- ・アイデアの実践的探究
- ・制作プロセス
- ・フィードバック
- ・芸術に関する調査
- ・プレゼン内容 など

★MYP芸術(音美)では…

生徒は、すべてのMYP「芸術」コースで芸術プロセスジャーナルを使用しなくてはなりません。
(記述資料、視覚資料、音声資料など学習内容によって形式は自由。)【『MYP芸術ガイド』より】

★DP美術では…

最終提出する成果物の大部分は芸術プロセスジャーナルから取り上げ発展させたものが望ましい。
ジャーナルの形式を生徒が自由に決めることを奨励。【『DP美術ガイド』より】

Starting in the first grade, students explore creativity and the arts using their Art Process Journal (APJ). This continues into the DP. Where the APJ is an important part of inquiry and learning. All of this culminates with the IBDP Visual Arts exhibition. The exhibition was held in late August and early September this year. Many parents, students, and even teachers from other schools came to the event to discuss the meaning and power of the students' artwork. All of this prepares students for a wide range of experiences in the future.



Visitors and students discussing art

1年生から、生徒はアート・プロセス・ジャーナル(APJ)を使って創造性と芸術を探究しています。これは DP まで続きます。APJは探究と学習の重要な部分です。これらすべては、IBDP Visual Arts 展で最高潮に達します。今年の展覧会は8月下旬から9月上旬にかけて開催されました。多くの保護者、生徒、そして他校の先生まで来場し、生徒の作品の意味や力について語り合いました。これらすべては、生徒たちが将来さまざまな経験をするためのよりよい準備となります。

IB 教育の特徴のひとつは、バランスのとれた全人的なアプローチです。米国をはじめとする世界各国は、資金を削減し、体育・保健教育、芸術教育、すべての学問を結びつけることに重点を置いた教育をあまり重視していません。これは、MOIS の教室での学習にどのように反映されているのでしょうか？MOIS の Visual Arts のカリキュラムを見てみましょう。

Installation art making use of light, shadow, and physical objects



◆各学年より

1年生「経験を自信にかえて」

1年生担当：山田 寛之

9月24日(火)から9月26日(木)の間、British Hills 国内異文化体験に行って参りました。事前に生徒たちで「レモン(=レモンをぎゅっと絞るように自分たちを律して充実した活動にしよう)」という合言葉を決め、体験に臨みました。往きのバスでは、各クラスの HR 委員が考えた英語を使ったレクリエーションを楽しみました。British Hills に到着すると、事前に記入した Registration card を使って英語でのチェックインを経験しました。物理学、SDGs、スコーン作り、英語を学ぶ意義に関するディスカッションなど、All English で行われるさまざまな授業に参加しました。普段とは違う雰囲気の中、研修中は一人ひとりが自分の精一杯の英語を使って、積極的にコミュニケーションをとろうとする姿が多く見られました。ここからは、1年生の British Hills の振り返りコメントをご紹介します。

- ・自分が英語で伝えたいことを伝えることができなかつたら、電子辞書を使ったりジェスチャーを使ったりして、何とか伝えようと頑張ることができました。
- ・英語でコミュニケーションをとることは大変だけど、こんなに楽しいと思わなかった。これで終わりにせず、英語の授業や海外の人とのコミュニケーションにも繋げていきたい。
- ・6期生としてレモンを合言葉に協力して活動することができたので、それを学校でも継続することが大切だと思う。British Hills での経験を自信に変え、様々なことにチャレンジして行ってほしいと思っています。保護者の皆様におかれましては、準備から実施にいたるまで、様々なご協力ありがとうございました。

宿舎前にて。おそろいの英国式マントを着ています。



スコーン作りの様子です。とても楽しんでいました。

2年生「行事を未来に繋げるために」

2年生担当：吉田 優作

9月25日(水)、2年生は芸術鑑賞会に行きました。午前中の上野では、東京国立博物館、国立西洋美術館、国立科学博物館から各班1箇所選び、見学しました。今回は「感動を探し、伝える旅。」というテーマのもと、「なぜ人々は美術館や博物館に魅きつけられるのだろうか」という問いについて各班が探究しました。記録係を中心に、一人ひとりが感動した場面やスポットを写真に残し、どこに感動したのか各班で1枚のポスターを作成しました。

午後は池袋に移動し、ミュージカル『ビルリー・エリオット』を鑑賞しました。ある町の少年、ビルリーがバレエダンサーになるという夢に向かって度重なる苦難を乗り越えていくお話です。主人公の少年をはじめとしたキャストの圧巻の演技に魅了され、生徒たちからは、笑顔や涙が見られました。本物の舞台を初めて見たという人もいたようなので、とても有意義な時間になったのではないかと思います。

今回の芸術鑑賞会に向けて、生徒に意識してもらったことは2つあります。それは、「伝統」と「感謝」です。「伝統」については、今回が2回目の開催となった校外学習を来年の2年生に、そして未来への伝統にしていくために、この行事を成功させ、全員が無事に終えることです。「感謝」については、校外学習を一緒につくってきた仲間、様々な準備してくれた保護者等への感謝の気持ちを忘れないで欲しいということ伝えました。行程表の作成や当日のグループ活動など、今回培った知識や経験が、来年の海外研修や今後の生活に繋がることに期待しています。



主人公のポーズをして写真を撮っている様子です。



集合写真と振り返りを行っている様子です。



3年生「半年を振り返って」

3年生担当:市川 さくら

Semester1での授業が終わり、最終週にはHR委員が企画した学年レクが実施されました。種目はじゃんけん列車、ドッジボール、クイズ大会が行われ、それぞれの種目において全力で取り組む姿が見られ、みんなが楽しめる学年レクとなりました。また、思い切り体を動かすことでリフレッシュにもつながったようです。

LHRでは「未来の自分分析プログラム」に取り組みました。希望している進路に近い仲間と3~4人のチームを組んで、①MOISのコース選択、②大学の学部・学科との関連、③職業・資格、④MOIS在学中にできる活動、⑤MOIS卒業後にできる活動の①~⑤のうち2つを選び、自分たちの将来と関連付けながら調査した内容をポスターにまとめ、発表しました。これらの活動を通して、改めて自身の進路と向き合う機会になったのではないかと思います。

今年度も折り返しとなりました。3G ProjectではいよいよMYPの集大成となるPersonal Projectに向けて動き出します。これまでの学びをいかして、学校内にとどまらない多様な活動に挑戦し、成長していく姿に期待しています。

Semester2も学年団で一丸となってサポートしてまいります。引き続きご家庭でもお子さんをサポートしていただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。



ドッジボールの様子です

各分野に分かれて進路について調査している様子です



進路の調査内容について、発表している様子です



4年生「今の自分にできることは何か」

4年生担当:原口 芽

今年度も折り返しとなり、4年生では11月の東北修学旅行に向け、事前学習を進めています。9月には全2回の除染土壌処理問題について探究しました。原子力発電所ではどのような課題があり、どのような解決策を考えることができるか、グループごとに考えました。今回の修学旅行のテーマは「自分にできることは何か」を考えることです。事前学習を深めていき、実際に東北に行ったときに、より深く、自分ができることが何か感じ考えてくれることを願っています。

また、先日に行われた探究発表会にご参加頂いた保護者の皆様、誠にありがとうございました。4年生は、この探究発表会をもちまして、3年生後期から3G Projectの授業で行ってきたPersonal Projectが無事終了いたしました。Personal Projectは、MYP4年間の学びの集大成ともいえる活動です。1年生の頃から3G Projectの授業を通して、探究の方法を学び、積み重ねてきました。その結果、学校外の団体とコンタクトを取って活動を広げた生徒や、外部のコンテストに挑戦した生徒など、学校内にとどまらない様々な活動に挑戦することができました。ここでも今の自分にできることを考え実行し、また一つ成長することができたのではないのでしょうか。この先の5・6年生でも、個人での探究は続いていきますので、今回の経験や反省を自分の成長に生かしてくれることを期待しています。



除染土壌処理問題に関する活動の様子



HR委員によるSemester1
振り返りの様子



探究発表会の様子

5年生「探究発表会」

5年生担当:小澤 星

今年度もあっという間に半年が過ぎました。この半年間の成果を発表する場である探究発表会では、3G Projectの活動やEE(Extended Essey)の研究成果を発表しました。生徒たちは、外部の機関と交流したり様々なコンクールに応募したりと、昨年度のPersonal Projectよりも多岐にわたる活動の進捗状況を発表していました。また、6週間の短期留学で本校の学習に参加していた留学生は、学年集会の時間にオーストリアでの探究活動を発表しました。この発表に関して質問したり議論したりする生徒の様子が見受けられ、多角的な視点を育むいい機会を提供できたのではないかと思います。

一方で、生活面に課題を抱えている生徒も少なからずいます。日々の規則正しい生活習慣や、ルールを守る自律的な精神などを身に付けることで、学習に集中できる環境が整い、学習の効果も高まると考えております。日々の体調管理を徹底し、授業や行事など、一つひとつの取り組みの意味を考えるように声かけをしています。ご家庭におかれましても、Semester Iを振り返り、学習の成果のみならず、その基礎となる生活面・精神面の成長や課題についても共有していただければ幸いです。



探究発表会(3G Projectの活動発表)



探究発表会(EEの活動の発表)



留学生の探究活動の発表

6年生「旅立ちへ向けて」

6年生担当:大豆生田 寛人

卒業まで残り半年ほどとなりました。6年生は自分自身の進路活動で忙しい日々を送っていますが、そんな中でも自分たちが旅立つMOISに何を残すことができるか、1期生として後輩たちに何を伝えられるのかを考え始めています。その一つの活動として、LHRや放課後の時間を使い、少しの時間でも後輩たちのためにできることをそれぞれ行っています。例えば普段の清掃ではしきれない場所をキレイにしたり、最寄りのバス停に立ちマナー啓発活動を行ったりと、最上級生だからこそ行動で後輩たちにその姿を示し、より良い学校づくりへ、その思いを後輩たちへ託そうとしています。

また、10月2日(水)に全校で行われた、各学年で取り組んでいる3G Projectについて学年を越え共有しフィードバックを与え合う「Share Your 3G Project」では、6年間の3G Projectでの活動内容を一つのポスターにまとめ、後輩たちへ3G Projectの6年間の見通しやその意義、それらが自分の将来へどのように繋がっていくかを伝えていました。人生の岐路に立つ6年生だからこそ伝えられる言葉があり、その言葉一つひとつに説得力と熱意が込められていました。終わりに、一人の生徒が後輩へ伝えた言葉を紹介します。

「6年間の活動を振り返ると、一貫したテーマで探究を行ってきたように見えるが、意図してやったことではない。それぞれの探究をしっかりと振り返り、それを興味関心に繋げ、次の年、次の年と、テーマを決めてきた。それが結果として一貫したものになっただけ。そしてそれが今は『人生のテーマ』になっている。みんなにも3G Projectの時間を有意義なものにして、将来を創り上げてほしい」



「Share Your 3G Project」での様子。
6年生がグループの中心となって活動していました。

